

# 河畔

青木はるみ 絵／石阪 春生

春がすみ

桜の咲く河畔で

ゆびの骨を鳴らしている

こいびとに逢うような

切ない胸の音も浮かんでいて

河畔では

ひもとく書物の文字までが

にじんで 流れていく

春がすみ

やつと気がついたのだけれど

舟も波立ちも静止する一瞬があつて

桜の枝だけが

うつくしい欲望のように

にじんで 流れていく

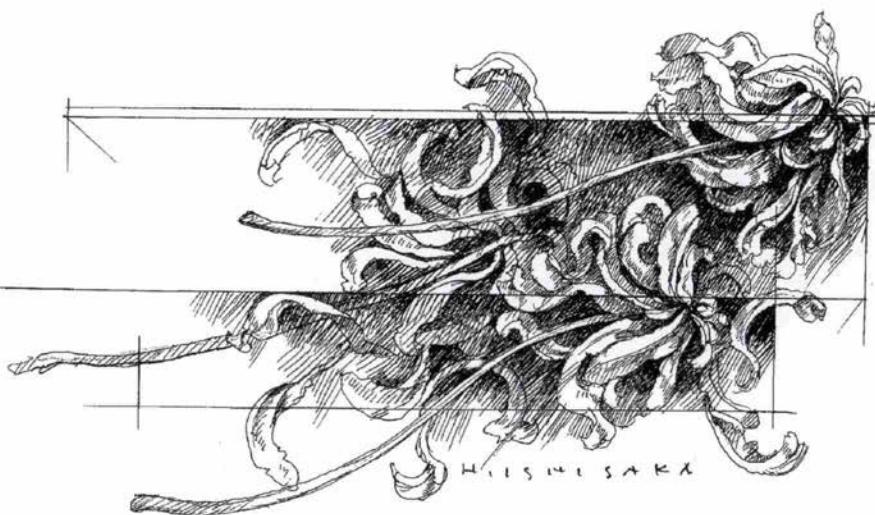
うらみつらみの丈を どうして

延ばして悪いわけがあろうか

宇宙に浮く地球の表層に すべて

さりげなく 浮かんで

また逢いましたね



## ■私の意見

三宮センター街アーケード・舗装竣工に向けて

# 神戸の自然感じる 三宮センター街に

長澤 基夫

（三宮センター街1丁目商店街振興組合理事長）



アーケードが開閉する様子は、明日へはばたくカモメ、フェニックスをイメージし、神戸三宮の復興、未来への夢を託しています。東入口に建てられた高さ三十一メートルの”フラワーロードゲート”、天井から吊り下げた港・時・宇宙の三つの風のモニュメント、道路に羅針盤、世界地図、時計の造形を刻み込んだカラー舗装は、三宮センター街の新しいシンボルとして、街に潤いと安らぎをもたらすことでしょう。

大震災の後も、多数のお客様にお越し頂いたりおられましたが、心理的にもつと明るい気持ちで、豊かなショッピングを楽しんでいただけるのではないかとうか。”世界一の三宮センター街”として復興を果たし、三宮の街はいつそう活気づくはずです。

しかし、この日を境に、店のあり方がいつそう問われるのも確かです。「この商品やサービスは、三宮センター街のあのお店にしかない」と、お客様に言っていただけるような、店づくりをして、永く気についていただけるよい品ぞろえをしなければなりません。神戸の代表的な商店街として、私共は身を引き締めて、皆様のご来店をお待ち申し上げます。

戦後の復興から五十年目に、阪神・淡路大震災に見舞われましたが、改めて、豊かな街空間を創造する機会になるのだと、プラスに受け止めました。そして、明石海峡大橋の開通を前に、三月二十八日、三宮センター街は竣工いたします。

**STEP GLOBALLY STEP NATURALLY**

地球を歩く

自然に歩く

**STEP COMFORTABLY**

快適に歩く



アリス・シューズであなたの足に健康を

Japan's Premier Health-Shoe Specialist

高級健康靴と関連資材輸入・機材輸入

アリス

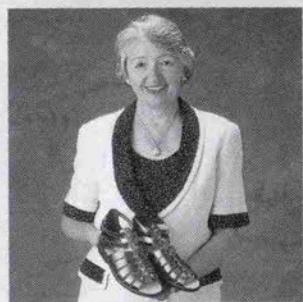
〒650-0012 神戸市中央区北長狭通り5-6-6

TEL:078-382-2101 FAX:078-382-2150

営業時間:10:30a.m.~6:30p.m.年中無休



「毎日の生活の中で、私達の足には大きな負担がかかり、足の状態は、体全体の健康に大きな影響を与えます。アリスの健康靴は、最新の整形外科学の知識に基づいて作られていますので、足に悩みをお持ちの方にはもちろんのこと、健康な足を健康に維持しようと思われる方にも、自信をもってお勧めできます。ドイツから招聘した整形外科靴マイスターが常駐し、お客様の靴の調製・修理・足の健康管理のお手伝いをさせて頂くと共に、アリスでは、隨時無料で足の相談をお受けしています。さらに、月に一度の“クリニック”では整形外科医と整形外科靴技術者が、お客様の足の悩みに専門的にお応えいたします。是非一度お気軽にご来店ください。」



株式会社アリス 代表取締役

アリス・クリスチャンス

月刊神戸つ子37周年記念文化賞／第7回受賞者発表

神戸創生  
37  
ANNIVERSARY

月刊神戸つ子の創刊30周年を記念して「神戸つ子賞」を創設いたしました。分野を問わず、永年の活動の蓄積によって、神戸文化の振興とイメージアップに功労のある方に賞を贈らせていただきます。(授賞式は四月二十四日ホテルオーケラ神戸にて)

選考委員



妹尾  
河童

（舞台芸術家・エッセイスト）

小笠原  
暁

小室

豊允

石阪  
春生

小泉  
康夫



## ブルー・メール賞

創刊10周年を機に神戸の文化を推進するため文化賞「ブルー・メール（青い海）賞」を創設いたしました。各部門別に選考会を開き左記の5名の方に賞をお贈りいたします。(授賞式は四月二十四日ホテルオーケラ神戸にて)

◆文学部門



岩崎  
風子

現代詩

安水  
稔和  
鈴木  
漠

選考委員

◆音楽部門



鈴木 雅明

（音楽家）

選考委員

小石 忠男  
響 敏也

選考委員

中西 弘則



宮崎みよし

（アーティスト）

伊藤 中島  
河崎 徳博  
晃一 誠

◆美術部門



宮崎みよし

（アーティスト）

伊藤 中島  
河崎 徳博  
晃一 誠

選考委員

伊藤 中島  
河崎 徳博  
晃一 誠

◆音楽部門

◆舞台芸術部門



太田 由利

（アーティスト）

佐野 岡田  
山本 澄箕  
忠勝 美代

選考委員

◆美術部門



森 篤二

（株式会社大丸常務取締役  
神戸店長）

選考委員

小泉 鈴木  
美喜子 章子  
藤本 ハルミ

■ブルーメール賞協賛企業

財団法人井植記念会

UCC上島珈琲株式会社

株式会社エルアイシー

関西西宮信用金庫

株式会社木下真珠

神戸地下街株式会社

田崎真珠株式会社

森真珠株式会社

株式会社大月真珠

にしむら珈琲店

（順不同）



小泉康夫  
(月刊神戸っ子社主)

石阪春生さん  
(画家)

小笠原暁さん  
(青屋大学学長)

小室豊允さん  
（姫路獨協大学  
経済情報学部長）

ザイナーとして、東宝や松竹や演劇のボスターを描く。藤原義江氏に才 ラの藤原義江に認められ、上京。デ ベラの「トスカ」の舞台装置を描く。選考委員

一九三〇年、神戸生れ、神戸一中  
在学中、小磯良平画伯にデッサンを  
学ぶ。卒業後、小磯画伯の紹介で  
奥村隼人氏主宰の「フェニックス工  
房」に入る。十九歳、小磯画伯の勧  
めで大阪の朝日会館のグラフィック



●第八回 神戸つ子賞  
著作『少年H』で神戸の紹介に抜群の寄与  
**妹尾河童に**

よう<sup>1</sup>に起用され、好評を得る。貝谷  
バレエ団、俳優座などからの依頼で

祭実行委員会、冬の夜に幻想的な電色を灯したルミナリ工実行委員会。

舞台美術家になる。NHKが招聘した第一回イタリア歌劇団来日公演の美術監督を任せられ、上演を成功させた話題となる。一九五四年に独学で舞台美術家としてデビューし、現在まで四十四年間、演劇、オペラ、ミュ

次に個人名があげられた。経済界から、震災復興を手掛けてきた新野幸二郎、神戸大学名誉教授はじめ、田崎俊作教授、田崎真珠社長、関本忠弘NEC会長、南部晴之バソナグループ代表。

音楽の辻久子、書道の望月美佐、建築家の安藤忠雄、清家清、また永年間にわたり後進の指導にあたつた元町画廊の佐藤廉、地域社会と密接に貢献してきた婦人団体協議会の土井芳子の活動も見逃せない。スポーツから野球のイチローの名も。そんな中、ベストセラー「少年H」をはじめ、神戸へエールを送りつづける妹尾河童の郷土愛は、当賞にふさわしいと意見が一致した。

そんな中、ベストセラー「少年H」をはじめ、神戸へエールを送りつづける妹尾河童の郷土愛は、当賞にふさわしいと意見が一致した。

賞」「東京都民文化栄誉賞」などを受賞。そして今回新たに「神戸つ子賞」が贈られることになった。〈小泉康夫〉

まず、二つの団体名が候補にあがつた。十回目を迎えた春節祭を神戸の名物に定着させた神戸南京町春節

選考經過

#### ■歷代受賞者

- 1 淀川長治／映画評論家  
 2 朝比奈隆／指揮者  
 3 陳舜臣／作家  
 4 宮崎辰雄／前神戸市長  
 5 中内 功／ダイエー会長  
 兼社長  
 6 中西 勝／画家  
 7 東山魁夷／画家

文 中 敬 称 略



鈴木 漠さん  
(詩人)



安水穏和さん  
(詩人)



## 伊勢田史郎さん (詩人)

翼書委員

岩崎風子さんの第四詩集「弓弦の森」が本年度の受賞作となつた。ここに集録されている全作品にいえることだが、言葉は鋭い感性に研がれて澄明度の高いものになつてゐる。また意識の奥處には、ひそやかに自由を希求する強固な意思の集積があつて、それらは時として行間から迸り出る。ここには、何ものにも拘束されまいとする詩人の若々しい精神の躍動がある。

詩集のなかには、かなりの数の電大震災の年、親しい友や身近な人を災詩が集録されている。彼女はあの

岩崎風子に

鋭い感性に研がれた澄明度の高い言葉

●第二十七回 ブレー・メーレ賞

《文學部門》

に寄り添う、というより、その傷みを自らの痛みとして対象そのものとなり、生きる。

感情移入を美学の根本原理と考えたのはドイツの心理学者リップスだが、ゆきなくも、岩崎さんの詩作が、ゆきなくも、岩崎さんの詩作のメトーデの一つになつてゐる。いずれにしても優れた詩集の誕生であった。より一層の精進を望みたい。

また、北野和博さんの詩集「いつてきます」が、最後まで選考の対象として残つた。

（伊勢田史郎）

岩崎風子さんの第四詩集『弓弦の森』が本年度の受賞作となつた。ここに集録されている全作品にいえることだが、言葉は鋭い感性に研がれて澄明度の高いものになつてい る。また意識の奥處には、ひそやかに自由を希求する強固な意思の集積があつて、それらは時として行間から迸り出る。ここには、何ものにも拘束されまいとする詩人の若々しい精神の躍動がある。

三人も失つたのだという。だから、 というわけではないのだろうが、これららの詩篇には、心のなかで死者に 寄り添い、鎮魂の祈りを籠めたもの が殆どである。ただ、不条理な世界やその社会状況、あるいはそこに生 起する人間の無慙に対する彼女の関 心は、大震災時ににおける災害の諸相に関わるだけではなく、たとえば、 従軍慰安婦の訴えに触発されて書いた作品「声」などにも凝集されてい る。彼女は言葉を訪ぐ過程で、対象

「よかつた」、「溜めていく」の江口節  
「ピクニック・ストリート」の小西口節  
み子、「カナディアン・サンセット」、  
の望月宏三郎、「弓弦の森」の岩崎義  
子、「四丁目の朝」の玉川ゆか、「い  
つてきます」の北野和博、「嗚呼、花  
の機動隊」の西谷民五郎、「陽を食む  
の中島妙子ら。

新鮮な作風の北野和博と現代詩らしい現代詩の岩崎風子が残るなか、比喩の世界での格闘が評価された岩

文 中 敬 称 略

### ■歷代受賞者

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 1. 詩／中村 隆    | 14. 評論／松尾 美恵子 |
| 2. 小説／鄭 承博   | 15. 詩／武田 信明   |
| 3. 俳句／小泉 八重子 | 16. 小説／山西 史子  |
| 4. 小説／福元 早夫  | 17. 詩／たかとう 匠子 |
| 5. 詩／三宅 武    | 18. 小説／森 栄枝   |
| 6. 小説／秋吉 好   | 19. 詩／田中 紀子   |
| 7. 詩／江頭 順子   | 20. 小説／夏巳ゆら こ |
| 8. 小説／桜井 利枝  | 21. 詩／渡辺 信雄   |
| 9. 詩／梅村 光明   | 22. 小説／吉田 典子  |
| 10. 小説／吉保 知佐 | 23. 詩／村中 秀雄   |
| 11. 詩／李村 敏夫  | 24. 評論／大塚 雅子  |
| 12. 小説／福岡 勝利 | 25. 詩／増田まさみ   |
| 13. 詩／時田 二郎  | 26. 小説／野元 仁   |

選考経過

●第二十七回

ブルーメール賞

《音楽部門》



鈴木雅明に

いま、音楽愛好家にもつとも注目されている演奏家というと、多くの人が神戸出身の鈴木雅明を挙げるだ

ろう。指揮者、オルガニスト、チエンバロ奏者を兼ねた彼の活躍は、なんとも多彩だが、驚くべきことにそれぞれの分野での第一人者であり、

その仕事はわが国ではほかに類例がない。とくにバッハ・コレギウム・ジャパンの音楽監督として、神戸松蔭女子学院大学のチャペルを本拠とし、さらに東京でも年に何回か開かれているバッハの「協会カンタータ全曲シリーズ」は、現在でも数少ない

い本格的なバッハ演奏と評価したい。また神戸で、スウェーデンのBISがコンサートに合わせて録音を続けているCDは、全世界に供給され、非常に好評を得ている。

鈴木はヨーロッパでの活動も高く評価されている。バッハやブクステーフィデの鍵盤音楽の演奏も特筆してよいが、彼の演奏はいずれの分野でもゆたかな音楽性を堅実な様式觀をもって表現している。そこでは最新の音楽学の成果がいちばんよく採用され、正統的な古楽演奏としての規範がつくられている。もちろん彼の主宰するバッハ・コレギウム・ジャパンは、オリジナル楽器による合奏團と古典の唱法を徹底させたコーラス、カウンターテナーを起用した独唱陣によって、技術的にも世界屈指の水準にある。こうした活動が鈴木雅明を原動力として生み出され、神戸から全世界に発信されていることは、私たちも誇りとしてよい。彼らの活動に対する期待は、年ごとに高まるばかりである。

（小石忠男）

■選考経過

昨年の活動を鑑みて、以下の方々



中西弘則さん  
(神戸新聞文化部  
音楽担当)



齋藤敏也さん  
(音楽評論家)



小石忠男さん  
(音楽評論家)

■選考委員

が候補に挙がった。

オルガニスト、チエンバロ奏者として国際的な活動が高く評価されている鈴木雅明、ピアノの伊藤勝、アントサンブル神戸ではフルート奏者の矢野正浩、阪哲朗、ブランニング、ディレクターの下田展久、ニューフィルハーモニー、ジュニア・オーケストラの林せつ。

鈴木雅明は、『バッハ・コレギウム・ジャパン』を中心に、神戸と東京で定期演奏会を開催、また、CDは世界的にも高い評価を得ていることから受賞が決まった。（文中敬称略）

■歴代受賞者

1. 田原 富子／ピアノ
2. 矢野恵一郎／合唱指導
3. 上月 倫子／バレエ
4. 今岡 順子／バレエ
5. 小石 忠男／音楽評論
6. 中村 茂隆／作曲
7. 関 晴子／ピアノ
8. 坂本 環／声楽
9. 山内 鈴子／ピアノ
10. 松本 幸三／声楽
11. 伊藤 ルミ／ピアノ
12. 井上 和世／声楽
13. 末広 光夫／プロデュース
14. 安芸 栄子／声楽
15. 延原 武春／指揮
16. 中西 覚／作曲
17. 青井 彰／ピアノ
18. 広岡 隆正／声楽
19. 戸洋子／ピアノ
20. 大前 哲／作曲
21. 中野 慶理／ピアノ
22. 田中 修二／ピアノ
23. 岡本 一郎／リュート
24. 畑 哲／声楽
25. 釜洞 義文／声楽
26. 岡本 祐子／声楽
27. [アート・エイト・神戸]／プロデュース

## ●第二十七回

# ブルーメール賞

《美術部門》

## 宮崎みよしに



河崎晃一さん  
(芦屋市立美術博物館)

中島徳博さん  
(兵庫県立近代美術館)

伊藤誠さん  
(美術評論家)

今回の受賞は、造形作家としての宮崎みよしに対してもと同様、粘り強いオーガナイザー、コーディネーターとしての宮崎みよしの活動も対象となっている。宮崎は造形作家としてこれまで兵庫県立近代美術館の「アート・ナウ」、「兵庫の美術家」等に出品し、日常の体験を反映させたユニークな立体作品で注目されてきた。こうした作家活動のかたわら、最近の彼女は六甲アイランドを舞台とした野外現代美術展の企画、運営の中心メンバーとして八面六臂の活躍を展開している。一九九三年から

始まったこの展覧会は、宮崎を中心とした神戸の作家たちのゆるやかな繋がりをベースとして計画されたものだったが、あの大震災を間に挟みながら、今では毎年夏の楽しいイベントとして確実に浸透、定着しつつある。特に大震災以後、この野外展が沈滞しかけた神戸の美術界に大きな刺激と励ましを与えたことの意義は特筆に値するだろう。

そして重要なことは、造形作家としての宮崎と、イベントの企画、運営者としての宮崎が本質的な部分で繋がっていることである。大勢の野心的作家に働きかけ、諸々の経済的、社会的、人間的問題を乗り越えてひとつずつ展覧会を実現するという、その全プロセス自体が、優れて創造的な行為なのであり、それは当然のことながら今後の宮崎の作品にも反映していくことだろう。

（中島徳博）

### ■選考委員

子。最終的には現代アート野外展の中心的役割を果たした宮崎みよしがプロデューサー的でもあり作家としての仕事を評価され全員一致で決定した。

（文中敬称略）

### ■選考経過

絵画では河野りえ、藤本由佳利、周

藍子、坂口知子、浜田公子らの個展。

一紀会のナガハタヨシコ、「'97兵庫の美術家」に出品の上村亮太、笹谷亮生、善住芳枝、宮崎みよしらの作品が印象

### ■歴代受賞者

- |            |            |            |            |           |          |           |            |           |             |            |             |            |             |             |             |            |            |            |            |            |            |            |            |            |             |
|------------|------------|------------|------------|-----------|----------|-----------|------------|-----------|-------------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|
| 1. 彫刻／山口耕生 | 2. 造形／丸本保文 | 3. 油画／小西向意 | 4. 版画／藤原智和 | 5. 平面／斎藤智 | 6. 油画／鄭智 | 7. 油画／山本知 | 8. 造形／堀尾政文 | 9. 造形／松谷相 | 10. 版画／坂口政治 | 11. 平面／木下忠 | 12. 造形／宮崎貞治 | 13. 平面／藤原豊 | 14. 建築／武田志明 | 15. 彫刻／山口久祐 | 16. 平面／松原三喜 | 17. 造形／植松知 | 18. 彫刻／松本政 | 19. 造形／田中政 | 20. 彫刻／坪田彦 | 21. 絵画／木津智 | 22. 絵画／片山修 | 23. 彫刻／牛尾浩 | 24. 絵画／中井善 | 25. 絵画／奥田善 | 26. 版画／赤崎己ま |
|------------|------------|------------|------------|-----------|----------|-----------|------------|-----------|-------------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|

## ●第二十七回

# ブルーメール賞

〈舞台芸術部門〉

## 太田由利に



恵まれた資質と姿態が、やがて大輪の花を咲かせる…と、デビュー当時の太田由利さんに、すでに期待するものがあった。

江川バレエ団での研鑽と、あくなき精進が、彼女をみごとにみがきあげた。

余分なものを落として、ただ祈りにも似た表現をつくした「ホフマン物語」での彼女の動きに、一人の女のドラマが充分に語られ、感動を味わわせてくれた。

心からの拍手で彼女の芸術を讃えたと思う。

（岡田美代）



### ■選考経過

日本舞では、若柳吉金吾が「若柳吉金吾の舞踊」を成功させ、地唄舞の大和松寿は上方舞で新境地を開いた。また、花柳呂月の卒寿を記念した「卒寿を祝う呂月の会三ツ桜会」は「月」、「四季の山姥」などの演目で好評を博した。花柳五三輔の兵庫県芸術奨励賞の受賞も見逃せない。大和楽の大和三千世の活躍にも期待したい。

洋舞では、江川バレエ・スクールの太田由利が素晴らしかった。自分の身体をよく知ったやわらかいバレエで、振付の深川秀夫とのコンビネーションも抜群。兵庫県洋舞家協会

### ■歴代受賞者

- 1.邦舞／花柳芳恵一子
- 2.邦舞／若柳吉由二
- 3.能楽／吉井順一
- 4.邦舞／花柳芳五三郎
- 5.邦舞／花柳吉叟
- 6.邦舞／藤間緑寿郎
- 7.邦舞／尾上菊見
- 8.能楽／藤井徳三
- 9.仮名手庵歌舞伎／海野光子
- 10.演劇／コメディ・ド・ブーゲ
- 11.モダンダンス／加藤きよ子
- 12.舞蹈／藤田佳代
- 13.邦舞／花柳五三輔
- 14.映画／白羽弥仁
- 15.邦舞／松本尚蒔
- 16.笑クリエイト社／楠本喬章
- 17.フラメンコ／東仲一矩
- 18.能楽／久田徹二
- 19.邦楽／大和楽「蘭の会」
- 20.貞松・浜田バレエ団
- 21.邦舞／花柳芳圭次
- 22.演劇／劇団四紀会
- 23.バレエ／貞松正一郎
- 24.狂言／善竹忠一郎
- 25.邦舞／花柳小三郎
- 26.邦舞／若柳吉金吾

（文中敬称略）

の「白鳥の湖」も頑張りを見せ、県のバレエ界のレベルの高さを示した。安定した実力の貞松・浜田バレエ団の秋定信哉も楽しみ。阿藤久子のフラメンコリサイタルはスカッとした気持ちのいい振付が光った。

演劇では、全国初の県立劇団である尼崎のピッコロ劇団が、文化庁芸術祭演劇部門芸術祭優秀賞、紀伊國屋演劇賞を受賞した。今年は、コスチュームにまで行き届いた神経の細やかさと子どもの扱いに定評のある江川バレエ・スクールの太田由利に受賞が決まった。

## ●第二十七回

# ブルーメール賞

《ファッショング部門》



## 大丸神戸店に

ファッショング都市・神戸では、衣食住という生活文化を彩るすべてのものをファッショングとみなして、他府県をはじめ海外にピーアールしてきた。しかしながらファッショングの情報発信という点では、まだまだ神戸の良さが充分に伝わっていないのではないか。

そこで震災後の暗いイメージを取り払うべく、神戸というお洒落な街にびつたりの店をリニューアルオーブンした大丸神戸店が注目された。ネオクラシックな石造りの外観、店ガス燈や回廊に彩られた店周辺、店



小泉美喜子  
(本誌編集長)



鈴木章子さん  
(神戸ファッション専門学校校長)



藤本ハルミさん  
(デザイナー)

■選考委員――

内のみュージアム、屋上の英國式ガーデンなどのハード面はもちろん、吹き抜けのエントランスを利用したファッショングショーなどソフト面もお洒落好き神戸っ子にはたまらなくうれしい構成。ファッショナブルで他に比類を見ないこの百貨店は、神戸市民の自慢の種である。

復興の元気付けるとなる、旧居留地のシンボル的同店から様々なファッショング提案が発信されることを期待して、今回の受賞決定となつた。

〈小泉美喜子〉

■選考経過

丸神戸店に決定した。(文中敬称略)

丸神戸店に決定した。(文中敬称略)

藤本ハルミがフランスにおける日本年にパリでファッショングショーを開き、日仏伝統工芸の融合に力を添えたことは、特筆すべき。オルビスホールのイベントや設備の素晴らしい群を抜いていた神戸ファッショング美術館や、デザイナーコンボーズド開催地神戸ファッショングマートと六甲アイランドは今後も注目株。ルミナリエ開催時、朝日ビル1Fでのフェリシモは企画の斬新さが評価された。アートクラフトフェアなど街づくりイベント、山西真理社長を中心

### ■歴代受賞者

1. デザイナー／藤本ハルミ
2. 神戸市心身障害福祉センター／米田博司
3. ニットデザイナー／市野木悦子
4. コウペ・ユニティーラーズ／KLTC
5. アートフラー／太田タマコ
6. コウペ・ファッショングサウス／KFS
7. パール／「真珠の街・神戸」を考えるプロジェクトチーム
8. 家具／神戸市家具青年会
9. コウペ・ファッショングモディリスト／KFM
10. 書道家／望月美佐
11. コウペ・ファッショングクリエーターズ／KFC
12. ジャーナリスト／村上和子
13. デザイナー／中村一夫
14. 柴田グループ代表／柴田音吉
15. デザイナー／丹野最世子
16. デザイナー／大西節子
17. 旗の作家／福井恵子
18. メガネ／服部メガネ店
19. アートフラー／デイマー／佐藤悦枝
20. ホテルゴーフルリツツ・ファッショングライ／山本芳樹



### シュエケ邸南面外観

4月の終わり、北野・山本地区の異人館が、附属屋も含めてほぼ90%復興する。大震災による異人館の破損や崩壊は、目を覆いたくなるような惨状で、あつたが、あの時から3年3ヶ月たつた今、観光客もそろそろこの地区にものどってきて、やっと震災前の姿にのどりつつある。震災後、取り壊されたり、移築のために解体された異人館もあるが……。

た建築家グループによつて助けられた。あの様な状況。自宅は全壊し、夫は足の骨を折り、事務所の建物は倒壊はしなかつたものの室内は壊滅状態で、大阪に仮事務所を移すという中で、よくこのよだな仕事が出来たものであると今さらながらに感慨深く思う。この仕事の中で、私は色々なことをあらためて発見し、文化や技術、デザインの伝承と創造の面白さについて考えさせられた。

神戸の異人館は、一般的にヴィクトリアンスタイルとも呼ばれる様式でつくられる。外壁は下見板張りか、その後の改造によるモルタル塗り、内部はモールディングで飾られた漆喰塗り、上げ下げのたて長窓。木製のベンキ塗りのブラインドがその特徴である。そのような異人館の崩れた現場に行つてみて、壁の中に竹小舞やあら土壁、漆喰を天井に安定させるための麻糸のトンボの垂れ下がりを見た時、不思議な感動を感じた。外観は洋風でも、内部、射体は日本の大工や左官による昔ながらの技術で建てられていたということである。構造的にも洋小屋組みは3棟のみで、あとはちゃんとした和小屋組み、柱と梁が日本の架構で組まれた壁は日本古来の貫構造であった。木材はそのほとんどが転用材であつたことにも驚かされた。

は日本の大工や左官による昔ながらの技術で建てられていたということである。構造的にも洋小屋組みは3棟のみで、あとはちゃんとした和小屋組み、柱と梁が日本的な架構で組まれた壁は日本古来の貫構造であった。木材はそのほとんどが転用材であつたことにも驚かされた。



右上：小屋組の部分補強 右下：2階寝室の壁漆喰の落下 左：英国人左官職人による作業

■異人館復興 住まいの図書館出版局発行  
2300円

されたことになる。東西文化、技術交流の面白さを感じさせる出来事である。

3年後の今年の1月17日、異人館の修復の様子を書いた「異人館復興」が出版された。色々な多くの写真とともに、細かいディテールや胸をうつエッセイ、ソードが集められている。ぜひご一読いたたきたい。

問題で多くはボード下地にクロス、または漆喰調塗装という仕様で解決した。その中で、明治時代に神戸で活躍したA.N.ハンセルの自邸として建設されたシユエケ邸は、本格的なヴィクトリアンスタイルの堂々たる建築であるが、内部もイギリスの職人たちによって美しいモールディングも含めてプラスター仕上げで復元された。明治時代にデザインは英国人が行い、日本の職人の技術で造られた建物が、おおよそ100年後の大地震の後は復元設計デザインを日本人の私達が行なったことになる。東西文化、技術交流の面白さを感じさせる出来事である。

地域文化論

〈その209〉

## 異人館復興

有村 桂子  
(いろか設計集団代表)

〈いるか設計集団代表〉

ふたりの気持ち  
スイートカップル



洋酒のかおり、チョコレートの味わい  
ふたりの気持ちを、この銘菓に託して

¥1,500



株式会社 **ノーハイム・コンフェクト**

本社 〒651-2117 神戸市西区北別府2-1-2  
TEL078-974-9756 FAX078-974-9758  
プライダルギフト 〒558 大阪市住吉区刈田町7-12-19  
事業部・大阪 TEL06-697-9435 FAX06-697-4188  
グランドール 神戸市中央区熊内町1丁目8-23  
熊内店 TEL078-231-1428  
さんちか店 三宮さんちかスィーツタウン内  
TEL078-391-3558



ママといっしょに



赤ちゃん：野津臯月ちゃん（平成9年5月20日生まれ）

ママ：幸子さん

「思いやりのある子になってね。」

★佐本産科・婦人科★  
佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15  
TEL:078-575-1024 (病室TEL:078-577-7034)

市バス上沢4停南スグ

●駐車場完備●

# 夢の架け橋、希望の光 明石海峡大橋いよいよ開通

貝原 俊民

（兵庫県知事）

藤原 良一

（本州四国連絡橋公団総裁）

小室 豊允

（姫路獨協大学経済情報学部長）

★世界一の長大橋を支える技術

小室 今日は神戸市垂水区のジェームス山にある井植記念館に来ていますが、ここは素晴らしい場所ですね。

貝原 明石海峡大橋が一望にできるとても美しい眺めです。

小室 明石海峡大橋は、我々が子供のころには「夢の架け橋」と言っていたんですよ。それがいよいよ「現実」になるわけですが、工事には何年かかりましたか。

藤原 調査を始めてから四十年、現地着工からもすでに十年目です。いろいろな方にご協力いただきまして、今年四月の開通目前となりました。

橋梁というのは架ける場所の自然条件に合ったように作らないといけないわけで、自前の技術を開発しながらここまできた関係者の苦労は並大抵ではなかったと思います。調査から設計、施工、材料面の開発いろいろな技術開発がなされ、特許や実用新案はおそらく百件を超えているでしょう。

小室 私はタコが大好きなんですが、なぜ明石のタコがおいしいかというと「明石のタコの立ち泳ぎ」と言われるほど、潮の流れが速いからです。そんな場所に橋を架けるのは、特別な苦労だったでしょうね。

藤原 水深が深いですし、おっしゃるように潮流が秒速四・五メートルですから、非常に困難な自然条件に對峙していたわけです。また日に千四百隻もの船舶が行き来する航路なので、そういう面でも支障をきたさないようにも工夫しなければなりませんでした。

小室 工事で亡くなられた方などはおられますか。

藤原 幸いなことに工事期間中に死し事故は一件もなっています。完成まで後少しですがこれは守らないと。

小室 この橋を作る技術をこれだけで終わらせるのは惜しいので、ぜひ次は紀淡海峡（紀州・和歌山）と淡路を結ぶとか、将来は外国で島で困っておられるところに行つて橋をかけてあげるとか、公団の仕事はまだまだありますね。

藤原 素晴らしい技術と経験の蓄積をさせていただき

たんですから、世界のためにも、国内でも海峡横断プロジェクトや離島架橋の課題もありますし、少しでもみなさんのお役にたちたいと思っています。

**小室** 世界の長大橋にはどんなものがあるんですか。

**藤原** 今世界で一番大きいのは、イギリスのハンバー橋で、中央スパンが千四百メートルあまりです。対して明石大橋は中央スパンが千九百九十メートル、全長は約四キロですから。

**小室** 世界一になるわけですね。橋が出来るとさまざまなインパクトがあるでしようね。道路網は、大動脈である山陽自動車道が全線開通しています。

**貝原** 関西圏という大消費地が四国と一体となり、兵庫の産業づくりはもとより、関西・瀬戸内圏の経済發

展や活性化に大きく寄与するものと期待しています。

## ★二十一世紀はコミュニケーションの時代

**小室** 私は、橋をどう使うのかということで、サンフランシスコのゴールデンゲートブリッジを随分見に行きました。周辺を調べたり、橋の使い方を研究してきましたが、やはり橋が架かっただけではだめで、地元の人がいかに使ってくれるかということが肝心です。

**藤原** まさにその通りですね。明石海峡大橋は科学的構造物・観光資源としても使えるでしょう。しかしやはり橋は人に使っていただいて、人々も地域も豊かになつていただくのが目的です。

**小室** 橋が着工になる時、環境破壊ということで問題になりましたが、ゴールデンゲートブリッジなどを見てみると、橋が「もうひとつ景観」を作りあげている。そういう面も見逃してはいけないです。

**藤原** 明石海峡大橋は新しいランドマークになると 思います。橋を眺望できる絶好の場所に公園施設などが整備されつつあります。

**小室** そういう周辺のプロデューサーをやつておられるのが貝原知事なんですが、多くのプロジェクトが橋の開通に合わせて進行していますね。

**貝原** フランスから日本に、日仏友好のモニュメントを贈りたいという提案があります。かつて、建国百年を迎えた若き国家アメリカに、「自由の女神」を贈り、二十世紀のテーマ「自由」の象徴としたように、フランスは、二十一世紀の課題を真の「コミュニケーション」に求め、これから世界を結び、アジアとの架け橋となる日本に、いま再び、そのシンボルを贈ろうというものです。そして、その建設地に淡路島を選んだので



左から小室さん、貝原さん、藤原さん

み合わせで、ハード面からの価値も大きいんですが、私はまさしく「ブリッジング」、いろいろなものを「つなぐ」という効果が非常に大きいと思います。

### ★大橋開通で進む震災復興

貝原俊民さん

藤原 人もモノも情報も橋を通って行き交うわけで、橋は一大コミュニケーションの場ですからね。交通の安定性が増すことで、地元の人々の生活・行動範囲も広がっていくでしょう。産業も物流からして変わってくるでしようから、兵庫県はますます拠点性を高め、どんどん産業の立地、物流業界の企業立地などが進んでいくのではないかと考えます。

貝原 そうですね。橋の効用の第一は、周辺住民の皆さんの生活の利便性向上でしようか。そして第二は、新しいランドマークとしての効用。そして、画家の東山魁夷さんや光のデザイナーである石井幹子さんなどに参加していただいて、橋梁照明を行ふことにしました。明石海峡の景観に調和した王冠のような美しい姿、そして、そのシルエットを夜空に浮かびあがらせる灯人などを魅了する兵庫の新名所となることでしょう。

さらに私が大きな効果を期待しているのは、産業面です。製造業の立地動向を見ますと、これまででは、都市から地方への移動が続いていました。その傾向が近変わりつつあります。

小室 都市の方に戻つてきているわけですか。

貝原 都心部周辺にストックヤードや加工場を作り、他から持つてきた半製品を多様化する消費者の要求に合わせて、加工し、完成品を出荷しているのです。そこで交通アクセスの整った兵庫県が非常に注目されているわけです。現に昨年の企業立地件数を見ると、兵庫県は日本一。震災からの産業復興にはまだ多くの課題が残されていますが、全体的には、非常に活気が出



藤原良一さん



す。淡路島には国生みの伝説があり、美しい自然景観が豊かに息づいています。加えて、淡路島が位置する大阪湾は、世界一の吊り橋をはじめ、神戸港や関西国際空港など世界でも有数の陸・海・空の交通結節点が形成されつつあり、国際的な交流の舞台として大いなる飛躍の時を迎えています。こうしたことが評価されたわけです。

小室 橋のかかる五年くらい前でしようか、兵庫県で我々学者が集まりまして、明石海峡大橋は二十世紀と二十一世紀にとつてどういう意味を持つんだろうという話をしました。そして、コミュニケーションがひとつ時代のテーマになるだろうということになつたんですよ。こういう長大橋というのは鉄と高度技術の組合せであります。現に昨年の企業立地件数を見ると、兵

てきています。明石海峡大橋の完成は、それに一層の拍車をかけるものと大きな期待を寄せて います。

## ★淡路島を「世界の公園島」に

**小室** 橋の完成はやはり、特に淡路島にとつては非常にインパクトがあるでしょうね。

**貝原** 戦後まもないころ、淡路島と明石市を結ぶ連絡船では、海難事故が非常に多く発生していました。明石海峡大橋は、こうした淡路島の人たちの切実な願いからはじまった計画です。実際には生活、教育、産業などもとと広範囲な分野で、いろいろな効果をもたらしてくれるに違ひありません。

ただ一方で、先に大鳴門橋が出来ていたこともあり、淡路島民の皆さんには橋桁になるのではないかという不安も生まれてきました。そこで淡路島の皆さんと行政で多くの議論をしてきたのですが、淡路島というのは、瀬戸内海国立公園のなかにあって、「花とミルクとオレンジの島」と呼ばれるほど温暖で風光明媚あふれる地です。大都市でのアンケートを見ても、淡路島にはそのようなイメージをもっている人が多いようです。そこで、人と自然が調和し、快適な生活空間と多彩な交流空間を併せ持つ「世界に開かれた公園島」づくりに全力をあげているところです。

ここでは、眼下に広大な国営明石海峡公園や大阪湾が広がる「淡路夢舞台」の建設を推進、素晴らしい景観をいかしながら、ホテルや展望台、レストラン、国際会議場などを配置し、感動とふれあいの輪が大きく広がる交流のステージをめざしています。また、平成十二年には国際園芸・造園博「ジャパンフローラ2000」が開かれるなど、世界の人々の心と文化が交流するコミュニケーション都市として、脚光を浴びる日も近いはずです。併せて、花と緑あふれる拠点づくりを全島で進めています。この春には、四季を通じて百花繚乱の雄大なパノラマを演出する「あわじ花さじき」や世界の名所を再現したミニチュアワールドや大観覧車も備えた「淡路ワールドパークONOKORO」などがオープンします。また、花と緑を担う人材の育成に対し、景観園芸を専門とする「淡路園芸学校」(仮称)を来年春に開校すべく、その準備に取り組んでいます。

**小室** 先日、淡路の人とお話をしたら、「息子がこんな狭い島はいやだ」と出ていったと言つて嘆くんですよ。しかし実は淡路島は、シンガポールやハワイのオワフ島と同じ大きさ。つまり観光で頑張ろうとなれば、シンガポールのようにもなればオアフ島のようになる、大変な潜在的エネルギーがあるんですね。しかも淡路島は、シンガポールなどに比べれば、緑比率が非常に高くなっています。こうした素晴らしい自然景観や交流基盤を最大限にいかしていけば、「世界の公園島」として飛躍することは決して夢ではありません。

大震災から三年といふことで、まだまだ傷もあるんですが、明石海峡大橋の開通が、闇の向こうの希望の光を見せてくれるような感じがしますね。

弁植記念館で



小室豊允さん



## 四月一日、野島断層保存館が開館

お話を伺った人

石田 恭一さん

（兵庫県企業庁都市整備局新都市企画課長）

四月五日に迫った明石海峡大橋の開通と合わせ、淡路地域では、人ととの交流が豊かに広がる世界に開かれた公園島づくりが進んでいます。大橋の開通により本州と淡路、さらには四国が陸路で結ばれ、人・モノの交流はもちろん、地域からの情報もさかんに発信されることでしょう。震災から得た貴重な教訓や事実も、淡路から発信される情報の一つです。

四月二日には、野島断層の一部を保存・展示する“野島断層保存館”が開館します。兵庫県企業庁都市整備局の石田恭一課長に、設置の目的をお話しいただきました。

「北淡町では、阪神・淡路大震災の震源断層である野島断層が、約十キロにわたり出現しました。震災後、この“生きた教材”をこのまま風化させず、大地震の猛威を後世に伝えていく必要があると、各方面から多くの声をいただきました。そこで、専門家のアドバイスをもとに、震災直後の状態に近いこと、見学に適していることなどを考慮し、約百四十メートルにわたり断層を保存・展示することに。国の天外のたくさんの方々にご覧いただき、震災の教訓を次世代に伝えることを目標としています。」

大橋の開通なら、垂水JCTから車で約二十分。

淡路サンセッターラインを走っていると、北淡町震災記念公園の中に、細長くデザインされた保存館が見えて来ます。どんな施設になつているのでしょうか。

「来館者を迎えるエントランスゾーンで大型パネル、モニターを使って、断層、地震、施設全体を説明。ガイダンスシアター（定員五十人）では、震災の記録映像や地表に現れたばかりの野島断層の姿を映し出します。“断層保存ゾーン”では、実際に露出している生々しい断層の姿を観察。地層を堀り下げた“トレーナー部分”では、地層のズレを側面から観察することも。平成十二年の春には、震度七を疑似体験できるシミュレーションシアターを備えた地震科学館も完成しますので、防災教育にも一役買うのではないでしょうか。開館を控えすでに幾つかの小・中学校から予約の申し込みがきています。子供たちが自然への畏怖や敬意の念をはぐくんでいくのに、これ以上の教材はありません。」

公園内には駐車場やレストラン、物産館もオープンします。ぜひ、皆さんおそろいで来館してください。」

阪神・淡路大震災の悲しい記憶をおさなりにするのではなく、大橋の開通を一つの契機に、大震災の事実を後世に伝えて行くことも私たち県民の役目です。

# 野島断層を見て知る

## 阪神・淡路大震災

